

芦屋町生涯学習推進計画「平成25年度行動計画」実績報告

1. 実施事業件数

平成25年度における実施事業を、生涯学習講座「あしや塾」の実施区分（8区分）ごとに集計した結果は以下のとおりです。

実施区分	25年度	主な事業
(1) 健康に気をつけていますか ～健康づくりへの学習機会～	5	「からだ、ゲンキ！教室」 「公民館体操教室」 「学んでみらんね！高血圧予防教室」
(2) 身体を動かしていい汗を ～スポーツを通しての学習機会～	10	「町民体育祭」 「グランドゴルフ大会」 「障がい者レクスポ大会」
(3) イベント満載です ～イベント・講演会を通しての学習機会～	9	「人権まつり」 「教育フォーラム」 「だごびーなとわら馬まつり」
(4) 子育て支援します ～子育てに関する学習機会～	11	「出前たんぼぼ広場」 「教育井戸端会議」 「乳幼児歯科保健教育」
(5) いろいろな相談にお応えします ～相談を通しての学習機会～	12	「無料法律相談」 「たんぼぼ育児相談」 「一般健康相談」
(6) 学び満載です ～体験活動や講座等を通しての学習機会～	32	「中央公民館講座」 「出前講座」 「花と緑いっぱい運動」
(7) 芦屋の文化・歴史 ～芦屋の歴史・文化を知る学習機会～	14	「化石探検講座」 「勾玉づくり体験講座」 「ギャラリーあしや特別展」
(8) 芦屋釜の里 ～芦屋釜と茶の湯文化等を知る学習機会～	11	「芦屋釜の里企画展」 「春・秋のコンサート」 「ひな祭り茶会」
計	104	

※実施事業名等詳細は、資料「平成25年度行動計画」事業一覧（実績結果）を参照

2. 目標達成状況及びアンケート実施状況

【目標達成状況】

平成25年度事業において、相談業務等を除き、参加人員など目標を設定して実施した事業は90事業です。

このうち当初目標を達成した事業数は40事業（全体の44%）でした。

また目標値が80%以上到達したものを含めると、全部で67事業（全体の74.4%）となっています。

【アンケート実施状況】

利用者の意見を聴取することで事業課題や新たな利用者ニーズを把握するとともに、翌年度の計画策定の参考にするため、各事業においてアンケートを実施しました。実施状況は以下のとおりです。

	実施事業数
実施した	48 (46.2%)
実施しなかった	44 (42.3%)
アンケートが必要ない事業	12 (11.5%)
計	104

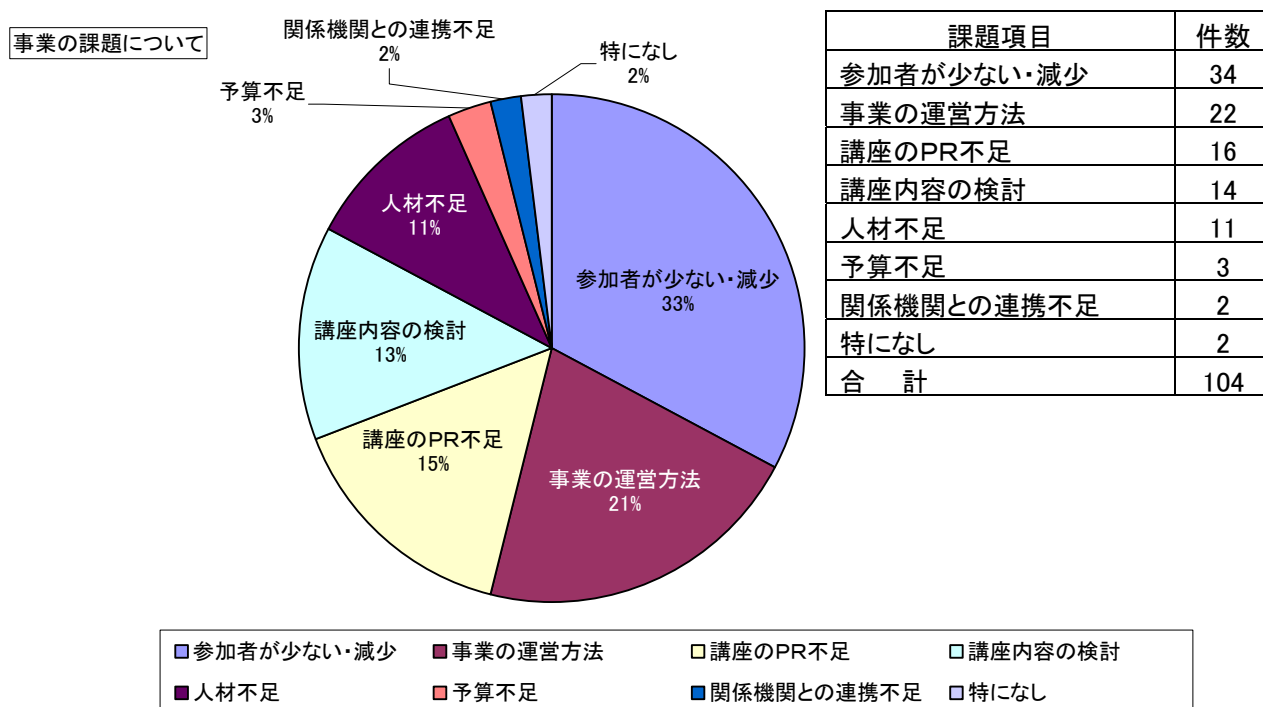
※「アンケートが必要ない事業」は相談事業。

アンケート未実施の主な事業は、スポーツイベントや子育て支援事業、歴史・文化及び芦屋釜の里事業でした。不特定多数の人が集まるイベントや屋外での活動で、アンケート実施が難しい傾向にあります。しかし、その事業成果を把握し今後の事業につなげるためにも、意見集約方法を工夫するなどして、できる限り利用者アンケートの実施に努める必要があります。

今後もアンケートを実施することで利用者の意見を聴取し、事業の課題や利用者ニーズの把握につとめ、PDCAサイクルの確立を目指します。

3. 事業課題の抽出

各事業が抱える課題としては、「参加者が少ない・減少」が33%、「事業の運営方法」が21%と上位を占めました。昨年の評価と比較すると、「PR不足(昨年27%)」「講座内容の検討(昨年45%)」の割合が下がっていますが、この2つは結果的に「参加者が少ない・減少」につながったと考えられ、依然として高い課題といえます。また人材不足も11%で、職員のスキルアップや、協力してくれるボランティアスタッフなどの確保が課題となっています。



4. 平成26年度行動計画の実現に向けて

【課題対策について】

25年度の実施結果から得られた課題を踏まえ、各担当課にて各事業に対する改善方法を抽出し、それをもとに、課題解決のための対策について次のように取りまとめを行いました。

(1) 参加者の増加対策

①講座のPR強化

講座の開催目的や対象者を明確にし、情報を求める人、情報を届けたい人に届くよう、「広報・個別勧誘の際などに事業目的・効果を詳しく説明」「デザインなど効果的なチラシや広報を作成」「参加者の声など結果をお知らせ」など、従来のPR方法を踏襲するだけでなく、より効果的な方法を検証し実施していきます。

また、PRを行う時期についても、「早期の告知」「関連事業の際に合わせて告知」など計画的かつ参加者の立場を考慮したタイミングで行うよう工夫に努めます。

②講座内容の検討

講座の企画は、生涯学習基本構想に掲げる推進目標が達成できるものでなければなりません。このため、講座の開催目的や対象者を検証し、「各世代におけるニーズへの対応」「イベントプログラム内容の再検討」「テーマの再検討」に努めます。さらに、アンケート結果を分析して、「ニーズにあったメニューにする」「定期的に講座内容を見直す」「実施時間・回数の見直し」を行う一方、アンケート未実施事業はアンケートを実施してニーズを把握し、テーマや内容の見直しを積極的に進めていきます。

また、目標達成した事業についても、「専門家と情報交換を行う」「他行事のノウハウを参考」「子ども向け、上級者向けと参加対象者にあった講座内容対応」「マンネリ打破に向け内容を定期的に変更」「簡便な体験コーナーを設置する」「連続講座への検討」など、内容の充実に努めます。

(2) 事業の運営方法対策について

講座内容の検討と同様に、その運営方法についても対象者のニーズにあった運営が必要となります。その対応には限界もありますが、「受講条件の緩和」「職員体制及び対応の強化」「開催時期・時間の検討」「託児の設置」など、限られた人材や予算の中で最大限の効果が発揮できるようできる範囲で改善に努めます。

また、「事前準備・打合せを綿密に行う」といった庁内各課・講師との連携を強化するとともに、「国事業とのタイアップ」「関係施設との調整強化」等関係機関との連携も図り、効果的かつ効率的な運営に努めます。

(3) 人材不足への対策について

様々な事業を実施するためには職員だけでなく、スタッフや講師など人材確保が必要です。各事業の運営を効率的に進めるだけでなく、生涯学習の基本的な考え方である「学んだ成果を活かせる場づくり」を進めるため、「教育現場との連携による後継者育成」「大学

等の支援・連携」「経験者のボランティア参加の仕組みづくり」など、生涯学習課を中心とした仕組みづくりに努めていきます。

特にイベントなど運営をサポートするボランティアなど、人材確保のための対策については、ボランティア活動センターを始めとした「関係機関との連携によるボランティアの確保」を進めていきます。

また、職員の指導力及び学習機会のコーディネート力の向上のため「研修会への積極的参加」など職員のスキルアップに努めます。

生涯学習推進計画は、住民の生涯を通じての学びを支援して生涯学習まちづくりの推進を目指すため、PDCAサイクルを確立して全庁で取り組んでいくものです。

このため各担当課では、事業計画の段階で上記改善方法を念頭に事業の改善を行い、住民ニーズを反映させるとともに、社会背景や芦屋町の現状を踏まえた課題解決のための生涯学習事業となるよう、取り組みを進めていきます。

ただし、生涯学習事業が単に利用者ニーズだけの反映にとどまらず、芦屋町の課題解決のための学習機会となるためには、提供する側の意識改革にも努めていく必要があります。そこで、事業の必要性の検証を行うとともに、庁内各課や関係機関との連携を強化し、効率的かつ効果的な事業の推進に努めていきます。